

平成26年度 指定管理者評価結果

所管課 健康福祉部 障害福祉課

1 施設の概要等

施設名	岐阜県立幸報苑
施設所在地	山県市大桑3606
指定管理者 (共同体構成員)	社会福祉法人岐阜県福祉事業団
指定期間	平成23年4月1日～平成28年3月31日
主な施設	入所室、事務室、会議室、食堂・厨房、浴室、作業室等

2 前年度の評価員会議の主な意見及び対応

前年度の評価員会議の意見	対応状況
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域移行希望者には、現実的に可能となる移行支援対策を具体的に講じることはできないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域移行をめざす利用者には、希望により午後からも時間を延長して作業が出来るよう支援し、就労に耐えられる体力や生活のリズム作りを行っている。また、ふれあい福祉フェアには販売員として参加し、地域との関わりを持つことの経験を積む機会とした。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域周辺の土砂災害危険地域の把握と土砂災害、火災等も含め、訓練回数・訓練内容に工夫を凝らし、災害に対する意識や備えを万全にするよう望む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幸報苑西山側については、土砂災害危険地域となっているが、平成27年5月から県による砂防工事が開始され災害対策を進めている。避難訓練については、毎月夜間・昼間・早朝・地震・休日・Eメール通報等を想定した訓練を実施し、避難誘導と消化対応等意識強化を図っている。また、大桑地区福祉施設防災による、防災無線を使用しての地震想定合同防災訓練及び、山県市から非常食提供による炊き出し訓練、三光園との合同防災訓練（年2回）を行っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在の利用者の重度化・高齢化はあるが、身体障害者の施設としては、就労系の事業所が少なく、旧授産施設としては、就労系事業に積極的に取り込んでいく必要性はどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 旧授産施設の特性を生かし、生活介護において工賃作業提供は行っているが、重度化・高齢化により、自主製品の作成もできなくなってきており、来年度はセブ（全国社会就労センター協議会）から全身協（全国身体障害者施設協議会）への移行を考えている。ただし、利用者の生きがいと生活の質の向上を図るためにも工賃作業は継続していきたいと考えている。

3 平成26年度評価結果

評価員会議
の評価・意見

【 評価結果 】

項目		平均点	評価
1	管理基準の充足状況	3.40	優
2	設置目的の達成状況	3.40	優
3	公共性の確保の状況	3.40	優
4	経営状況	3.20	優
5	その他派生的効果等	3.40	優
総合評価		3.40	優

(評価結果：5名の評価員による1～4点の4段階評価)

(努力が不足している ← 1 2 3 4 → よく努力している)

【 評価についての意見 】

○管理基準の充足状況

- ・旧授産施設の特質を生かし、利用者の働きたいという要望を受け、生産活動を取り入れた事業運営を行ったことが評価できる。また、一方では重度化する利用者対応にも心がけ、利用者のパーソナリティを尊重するとともに、同姓介護を徹底するなど、利用者1人1人の生活の質の向上に努めた点が評価できる。
- ・朝礼時の「ヒヤリ・ハット」「個別支援計画書」の周知をしていることは、利用者にとってケアの継続性が図られるという点から評価できる。
- ・地域生活移行の支援を、自施設だけでなく地域に出向き、いろいろな体験の機会を提供したことが評価できる。
- ・利用者の個別支援計画の中で、短期目標の確実な実践に期待している。

○設置目的の達成状況

- ・施設入所の利用率が高い。また、岐阜圏域の相談事業所として福祉サービス利用者への利用計画モニタリングを作成して、相談事業を円滑に実行されており、今後の施設利用者の生活への反映につながると考えられるため評価できる。
- ・地域のなかで旧授産施設としての存在は大きいだろうが、今後、高齢化、重度化していく利用者も増加することから、施設の方針を明確にして特色化を図っていく必要がある。将来をどのようにしていくべきかの青写真に期待している。

○公共性の確保の状況

- ・昼夜を問わず災害に備えて幅広い想定避難訓練を実施し、防災意識の強化を図っている点が評価できる。
- ・自治会役員との話し合い、外部のゆうあい相談員や職員によるなんでも相談、各種調査などを実施していることから、利用者が自分の思いを言いやすい体制

	<p>ができてることが評価できる。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 利用者の重度化・高齢化の現状の中で、個々の利用者ニーズに応じた支援を方針としている。その中でも生産活動を通して働くことの意義や喜びを実感できるような支援を重視している点が評価できる。 <p>○経営状況</p> <ul style="list-style-type: none">・ 建物の老朽化に伴う修繕費の増加や、利用者減もあったが、日常的な経費減や節電に努めており、経営状況は概ね適正である。・ 働く意欲や働く喜びを常に念頭に置いて、午前中の受託作業を切れ目なく提供している点が評価できる。・ 利用者の入退院や施設の老朽化は致し方のないことであるが、定員の充足は、常に心がけることを期待したい。また、旧授産施設の特色を残した経営をするのか、重度化に対応した施設経営とするのか。今後の運営方針を立てる時期だと思われる。 <p>○その他派生的効果等</p> <ul style="list-style-type: none">・ 地域のボランティアによるパソコン・生け花・手芸教室を開き、余暇活動の充実を図っている点が評価できる。・ 大桑地区との関係性が非常に良好であることは評価したい。三光園との合同行事の夏祭りや合同祭でのボランティアの動員、中学校の体験学習、市社協サマースクール、保育園児・小学校との交流会など、多くの外部との交流は利用者にとっての、非日常生活の機会となるが、これらを毎年取り組んでいることが評価できる。・ 幼稚園児、小学生、中学生などの訪問時、障がいに対する差別をなくしていくような簡単な心に響く話を、利用者や職員がすることで差別をなくすための啓蒙につなげていく事を期待したい。
県の評価	<ul style="list-style-type: none">・ 協定書に定めるサービス水準を満たし、適切に管理されている。